

和歌山県農林水産業競争力アップ技術開発事業

# もも「さくひめ」の特徴と 栽培上の留意点



和歌山県果樹試験場かき・もも研究所

(2020年11月作成)

## 【来歴】

- ・国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構育成
- ・ブラジルからの導入品種（Coral）が育種親に入るため、低温要求性が低い
- ・2018年3月品種登録

## 【特徴】

- ①従来品種に比べ低温要求量が少ないため、発芽で20日程度、開花で10日程度それぞれ早い  
⇒発芽前防除（石灰硫黄合剤、マシン油乳剤等）や開花期防除が遅れないよう注意
- ②収穫時期は6月下旬（「日川白鳳」～「八幡白鳳」時期）

表1 「さくひめ」および「日川白鳳」の3年間の生育状況（かき・もも研究所）

品種	年次	発芽期	開花			収穫		
			始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
さくひめ	2018年	--	3/19	3/22	4/1	6/18	6/21	6/25
	2019年	2/14	3/20	3/22	3/30	6/20	6/23	7/1
	2020年	2/10	3/13	3/17	3/26	6/16	6/22	6/30
	3年平均	2/12	3/17	3/20	3/29	6/18	6/22	6/28
日川白鳳	2018年	--	3/27	3/30	4/6	6/13	6/15	6/18
	2019年	3/5	3/29	3/31	4/11	6/19	6/21	6/24
	2020年	3/3	3/28	3/31	4/7	6/19	6/22	6/26
	3年平均	3/4	3/28	3/30	4/8	6/17	6/19	6/22

⇒自家受粉するため、人工受粉は不要

- ③「日川白鳳」に比べ、果実の成熟が緩やかで、適熟収穫で食味が仕上がる  
⇒若採りにならないよう注意！（従来の早生品種よりも樹上での保ちが良い）

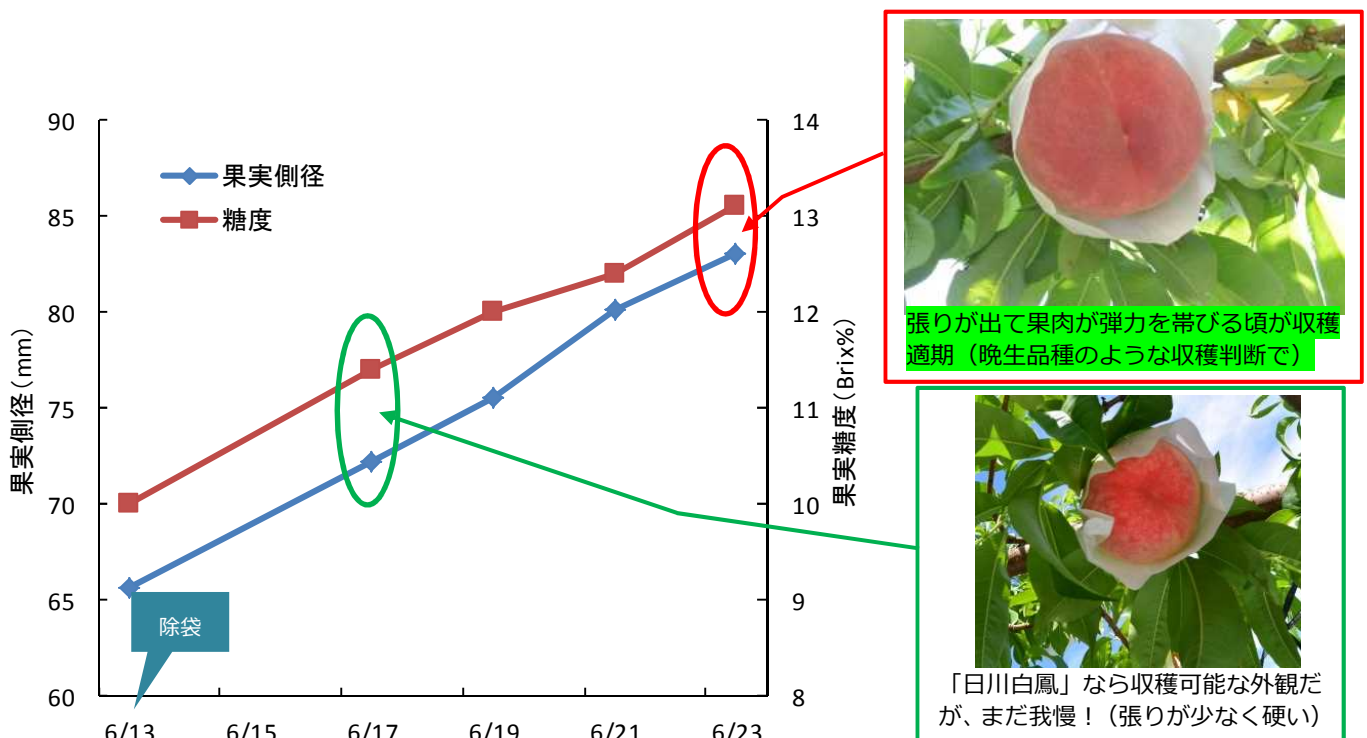


図1 「さくひめ」の樹上での果実側径および糖度推移（かき・もも研究所、2019年）

- ④果実重約 300 g で早生品種としては大きく、双胚果が多いが核割れは少ない
- ⑤糖度は「日川白鳳」と同等で、年によってはやや酸味を感じる

表2 「さくひめ」および「日川白鳳」の3年間の果実品質（かき・もも研究所）

品種	年次	果実重 (g)	果肉硬度 (kg)	糖度 (Brix%)	酸度 (pH)	双胚果率	核割れ果率
さくひめ	2018年	310	2.2	10.8	4.2	--	15%
	2019年	299	2.4	13.5	4.5	22%	8%
	2020年	293	2.1	12.4	4.4	50%	19%
	3年平均	301	2.2	12.2	4.3	--	14%
日川白鳳	2018年	190	2.4	11.7	4.3	--	100%
	2019年	233	2.5	12.2	4.5	--	100%
	2020年	249	2.3	12.0	4.4	--	95%
	3年平均	224	2.4	12.0	4.4	--	98%



写真1 「さくひめ」(左)と「日川白鳳」(右) 2階級ほど「さくひめ」のほうが大きい

- ⑥「日川白鳳」に比べ、花芽、葉芽がやや少ない

- ⇒摘蕾、摘花は軽めでOK
- ⇒せん定時に葉芽をよく確認し、葉芽のない枝を残さない
- ⇒側枝の切り戻し、間延びした側枝の間引き等、意識的に側枝更新を！

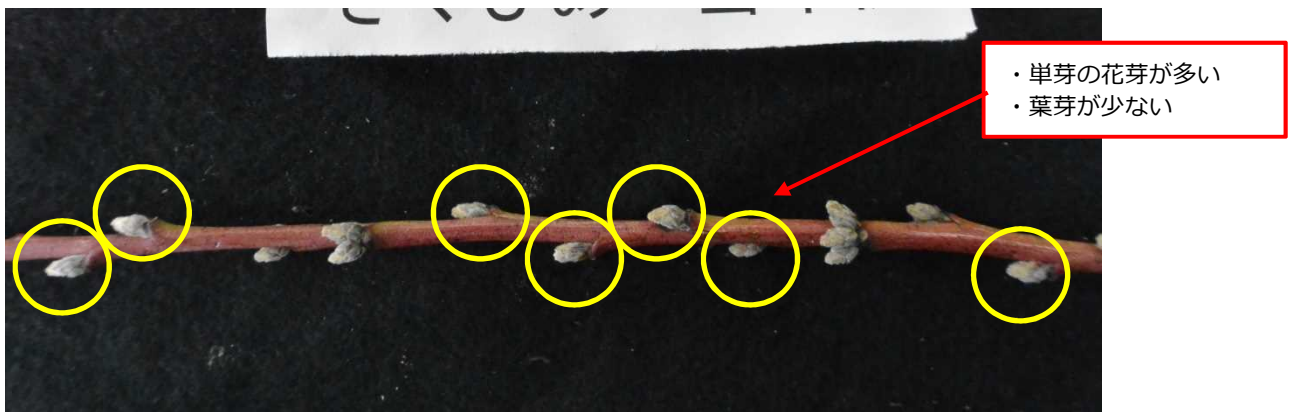


写真2 「さくひめ」の当年枝

表3 「さくひめ」および「日川白鳳」の花芽および葉芽数（かき・もも研究所、2020年）

品種	結果枝長 (cm)	花芽数 (個)	葉芽数 (個)
さくひめ	29.3	23.8	6.5
日川白鳳	29.4	29.6	9.1

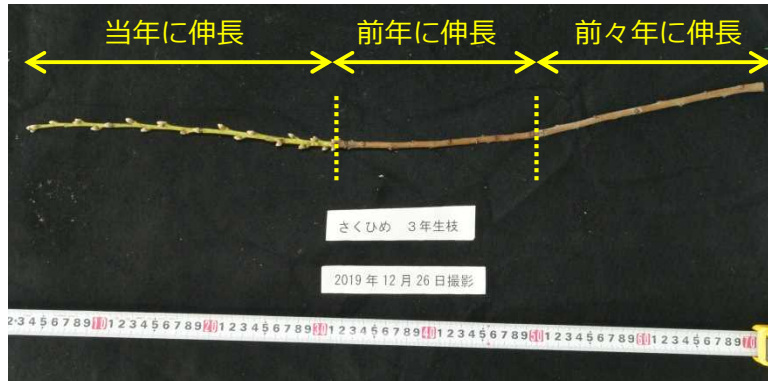


写真3 「さくひめ」の3年生枝 葉芽が先端のみの枝は間延びする

⑦発芽、開花時期が早いため、従来品種に比べ凍霜害への懸念がある

⇒ 凍霜害を受けやすい園地への植栽を避ける

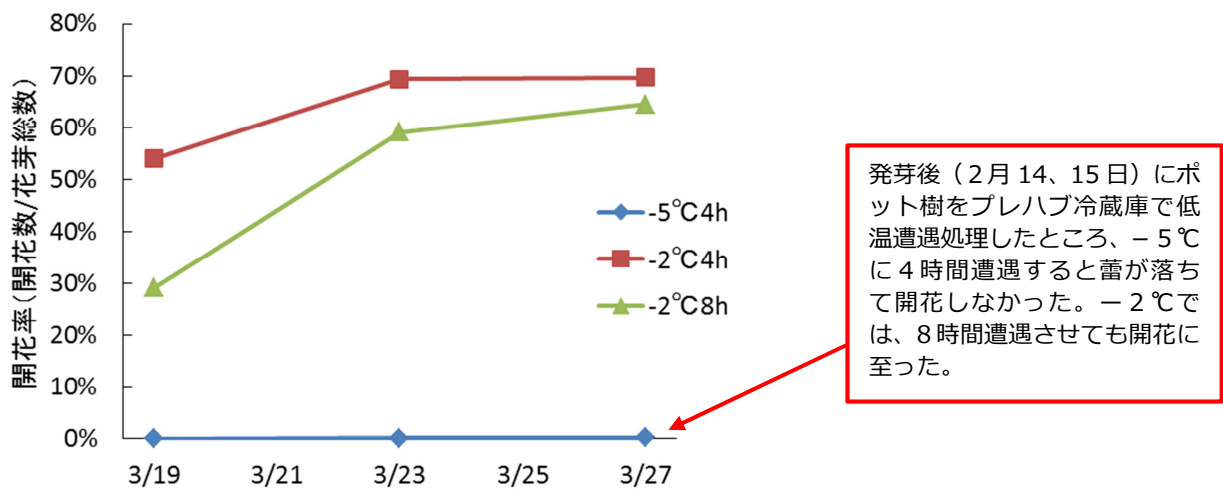


図2 低温遭遇処理した「さくひめ」ポット樹における開花率の推移（かき・もも研究所、2020年）

⇒ 若木のうちは主幹へのわら巻き等、凍害対策を！



特に若木のうちは凍害によって樹が傷み枯死することもあるため、12～3月の低温期には主幹にわら巻きを行い、樹を保護することが重要

写真4 凍害対策のための主幹へのわら巻き

【栽培適地】

- ・ 凍霜害の懸念があるため、冷気が溜まりやすい地形や2～3月に最低気温が-5°C程度まで低下しやすい地域には不向き
- ・ せん孔細菌病に罹病性であるため、風当たりの強い園地への植栽を避け、防風ネット等の対策を行う